特集 賑わいと温もりあふれる上田商店街、50周年へ。

50年の歴史を物語るチラシの数々。当時のトレンドやまちの雰囲気も垣間見えます。

盛岡市上田商店街協同組合は昭和49年9月に発足し、今年で50周年を迎えます。これまで、岩手県立中央病院敷地を利用した「上田夏まつり」や岩手大学と協力した「うえだ交流まつり」など、地域の活性化に取り組んできました。住民だけでなく学生からも愛される商店街の今、今後の展望について伺います。

城下の侍町として発展

今年で50周年の節目を迎える盛岡市上田商店街協同組合。現在の33組合員は、飲食店、病院、金融機関、酒店、文具店など、生活に密着した事業者がほとんどです。

藩政期まで時代を遡ると、上田かいわいは武士階級が暮らす3つの小路が点在するまちでした。盛岡一高と岩手大学近郊は、城下の警察業務を担う与力が暮らす「与力小路」、県立中央病院方面の道筋は尼寺の門前町として開けた「上田小路」、幕末に大沢川原の家臣が移り住んだ岩手大学農学部付近は「上田新小路」と呼ばれ、侍町として発展してきました。

その後、大正15年に専売局盛岡工場（現在の日本たばこ）が大沢川原から移転。専売局の女子寮もあり従業員が行き交うことで、上田エリアが栄えていったのです。昭和47年に専売公社が移転後、その跡地に県立中央病院が建設されると、道路整備も徐々に進み、現在の街並みができてきました。コンパクトな規模に小中高大と一貫した学び環境が整い、医療施設、生活をまかなう商店街がある利便性の高いまち、それが上田商店街の大きな特徴といえます。

商店街を軸に、地域一帯が連携

商店街活動のメインイベントである「上田夏まつり」は組合発足後の昭和53年から続き、まちの賑わい創出に大きな役割を果たしてきました。まつりは商店街の結束力を高める役割もあり、その先導役を担うのが同商店街理事長の中川善功さんです。盛岡上田郵便局長として長く町内会や商店街と関わってきた中川さんにとって、地域の活性化は業務を超えたミッションでした。同商店街の特徴について、中川さんはこう話します。

上田商店街協同組合理事長の中川善功さん。商店街や界隈の歴史も詳しく、杜陵高校で講演をすることもあります。

「小中高大学の教育機関、商工会、町内会、医療機関など、地域すべてと連携をとっているのが上田商店街の特徴です。きっかけは、夏まつりで使うテント20張ほどを近隣学校から借りたことでした。さらに、テント設営を中学生たちに手伝ってもらったり、イベントに出演してもらったり。商店街の行事運営には地域の協力が不可欠。子どもたちが上田夏まつりに関わることでふるさとの思い出として記憶に残り、地元愛にもつながっていくのではないかと思っています」。

イベントは年に1回の夏まつりが主ですが、信頼関係の構築は日頃の交流があってこそ。ここ数年は、商店街の集まりに、町内会、近隣小中高大学の先生、病院長までも招いて意見交換や情報共有を重ねているそうです。

上田夏まつりは昭和53年から続く、上田商店街の一大イベント。近隣の学校とも連携しながら地域を盛り上げています。

コロナ禍には、盛岡市上田商店街協同組合が学生支援を目的に「うえだらけ」というお得なチケットを発行。これはコロナの影響でアルバイトができなくなった学生、仕送りが減って生活が苦しい学生をサポートしようと、大学側の補助金を活用したものです。身近な上田商店街で使える格安チケットで、4店舗回ると景品がもらえる仕組みを学生自ら考案。大学、商店街、学生の思いがうまくマッチングした企画でした。

さらに、令和4年からは、キャンパス内に商店街が出張出店する「うえだ交流まつり」がスタート。保育園や小中高、地域包括支援センターなどが一体となった、他に例を見ない取り組みでより開かれた学校をめざしています。

「大学や高校などでは、地域の活性化を学びのテーマに取り上げる機会が増えてきました。上田商店街の活動は、このエリア全体を学び舎にした取り組みのモデルケースにもなり得るのではないかと思います」と中川さん。イベントでの体験が進路を考えるヒントになったという高校生もいるそうで、商店街活動を軸に地域全体が子どもを育む場になっていると感じています。

まちを照らす40基の灯り

昭和49年、上田商店街協同組合はスーパーむらかみの空き店舗を事務所に設立されました。昭和50年にはさっそく、街路灯48基設置と上田通り一方通行解除要請に着手。続いて下水道の完備等、住む側が暮らしやすい環境づくりに取り組んできました。小中高大学が道筋に点在することもあり、まちを照らす明かりは安心安全の第一条件。現在設置されている40基の街路灯も点検管理しています。

昭和50年に設置した街路灯は、老朽化のため平成10年に撤去。同時に、東北電力とNTTの電柱を利用した街路灯が新設され、安全なまちづくりに貢献しています。

人の行き来が途絶えない上田通り。そのほどよい体温に誘われてか、ここ数年で新しい店もオープンしています。スイーツ店やお弁当屋さん、カフェなど女性オーナーの組合員も増えており、新しい風が吹き込む上田商店街。50周年を迎える9月に先駆け、夏まつりの準備も忙しくなりますが、幅広い視点から面白いアイデアが生まれることを中川さんは期待しています。